

防犯の日本語

対象者の日本語レベル	初級から上級まで	時間	3 時間
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事件・事故等を近くの人に知らせることができる。 ・ 警察（110 番）に電話ができる。 ・ 犯罪に遭わないために自分ができることがわかる。 		
実技講師	警察官（複数の方が効果的）		
日本語補助者	初級学習者の場合は、学習者と日本語補助者が同数であると効果的。 中級以上は 4～5 名に 1 名の日本語補助者がいるといい。		
準備物	犯罪の絵カード		
配布物	振り返りシート		

講座の流れ

時間	学習者の活動内容	留意点
20 分	【イメージをつかむ】 ・ 自己紹介をする。 ・ 自国の犯罪についてグループで話し合い、内容を発表する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習者、日本語補助者あわせて 5～6 名のグループを作る。 ・ 「犯罪」という言葉を学習者が理解しているか、必ず確認する。
15 分	【ことば・表現を知る】 ・ 犯罪に関する言葉や表現を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習者にどんな犯罪があるか挙げてもらい、日本語で何と言うか確認する。
60 分	【体験・行動する】 ・ 警察官の防犯対策についての講話を聞く。 ・ 理解できない言葉があれば、積極的に質問する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 警察官の講話中、学習者の様子を観察し、理解が不十分だと思われる言葉や表現をメモして後半の日本語指導に役立てる。 ・ 警察官の講話で「オレオレ詐欺」、「ひったくり」、「スリ」など具体的に示したほうがわかりやすいときは、日本語指導者、日本語補助者、警察官が犯罪を再現してみせる。 ・ 防犯のポイントを警察官に解説してもらう。
20 分	【ことば・表現を知る】 ・ 犯罪に遭って、助けを求める表現、何があったかを説明する表現、犯人の目撃情報を伝える表現等を確認する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 警察官の講話の内容をどの程度、学習者が理解したか確認するために、内容について質問する。 ・ 日本語補助者は学習者と話す中で学習者が言いたい内容を理解し、新しい日本語のことばや表現を提示する。
15 分	【体験・行動する】 ・ 犯罪に遭って、助けを求めるロールプレイをする。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 犯罪の絵カードを参考に、学習者が犯罪の被害に遭ったという状況を自由に設定し、何と云って周囲の人に助けを求めるか考え、グループで演じるように促す。
10 分	【ことば・表現を知る】 ・ 110 番通報の練習をする。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分の名前と住所、電話番号が日本人に伝わる発音で言えるようにする。
20 分	【ことば・表現を使う】 ・ 警察官と 110 番通報の練習をする。 ・ 警察官に質問する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 警察官が複数いれば、グループに分かれて練習する。警察官が一人の場合は、日本語補助者が警察官の代わりをする。 ・ 防犯について警察官に質問したいことを自由に話す時間をとる。
20 分	【学習を振り返る】 ・ 振り返りシート に、講座で覚えた言葉や表現を記入する。 ・ 振り返りシート に書いた表現を発表する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 振り返りシートには学習者が印象に残った言葉や表現、覚えて使いたい言葉や表現を書くよう指示する。 ・ 日本語補助者は学習者が学んだ言葉や表現を思い出せるようヒントを与え補助する。



「お巡りさんのお話がわかりましたか？」と、学習者に聞いてはいけません。

警察官の講話内容を学習者が理解したか確認する場合、学習者に「わかりましたか？」と聞いたとしても、学習者は警察官に遠慮して「はい、わかりました」と答えるだけです。話をしてくれた警察官を前に、「講話の内容がわかりませんでした。」と答えにくいものです。

学習内容をどの程度理解しているのか確認したい場合は、「こんな時はどうしたらいいとお巡りさんは言っていましたか？」と具体的な防犯対策について、学習者に質問して理解度を確認しましょう。



防犯講話をお願いする時のポイント

事前に学習者のニーズを聞き、警察官と十分な打ち合わせをして、必要な講話の項目を絞ることが大事です。パワーポイントを使用する場合は、「文字よりも絵や写真を多くする」「漢字にはルビをふる」といった配慮をお願いします。

犯罪の場面を、警察官と日本語指導者や日本語補助者と協力して、再現してみると効果的です。当協会で開催した際は、なりすまし詐欺の電話のシーンを再現しました。学習者の皆さんから「あー、なるほど」と声上がり、理解が進んだようです。

県警察本部のホームページには、多言語で防犯について書かれている資料がありますので、参考にしてください。福島県警察本部 [外国語の情報提供](#)

当協会で開催した際は、香川県警察本部作成の [Guidebook for Foreigners](#) を紹介していただきました。



お巡りさんは怖い人じゃなかった。お巡りさんと話せてよかった！

どこの国でも警察官は怖い存在で、できるだけ関わりたいくないと思われがちです。しかし、犯罪から身を守ることはとても大切なことなので、学習者が聞いてみたいと思っていることがたくさんあります。警察官と自由に話せる時間は、日頃の疑問や心配を解消する貴重な時間となりますので、できる限り時間を取ってください。

また、本当に聞きたいことを日本語で質問するので、発話のモチベーションが格段に上がり日本語の学習が進みます。日本語補助者は、学習者に代わって聞いてあげるのはではなく、学習者が自分で質問できるよう日本語の手助けをしましょう。



↑ 警察官相手に110番通報の練習

<参考> (犯罪の絵カード)

